

# LOBO

## 業況3月ぶり改善

業況DIは3カ月ぶりに改善。先行きは慎重な見方が残り、ほぼ横ばいの動き。日本商工会議所がまとめた9月の全産業合計の業況DIは、▼15.3と、前月から+2.9ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不

変」への変化が押し上げ要因となったことに留意が必要。堅調な建設・設備投資に加え、インバウンドを含む好調な観光需要が全体を牽引した。また、電子部品、自動車関連の生産が引き続き底堅く推移した。他方、人手不足の拡大や、天候不順等による農水産物の出荷減・価格上昇、消費者の低価格志向を指摘する声は依然として多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復が続くものの、そのマインドには依然として鈍さが見られる。

業種別では、建設業は公共・民間工事の増加を指摘する声が聞かれて改善。ただし、深刻な人手不足により受注を見送らざるを得ないとの声は多い。製造業は、天候不順等に伴う農水産物の出荷量減少・価格上昇、鉄鋼などの原材料価格の高止まりによる収益圧迫の影響が見られ悪化。ただし、電子部品や自動車関連は底堅く

推移しており、業況感がばらつく。卸売業は、農水産物の供給不足による影響や運送費上昇分の価格転嫁が難航しているとの声が幅広く聞かれ悪化。

小売業は改善したものの、「悪化」から「不変」への変化も影響したことに留意が必要。好調なインバウンドに加え、消費が持ち直す中、気温の低下により秋物衣料の需要が伸びたとの声も聞かれた。一方、消費者の節約志向を指摘する声も依然として根強い。サービス業は改善。観光需要の牽引が続くが、人手不足の影響が深刻との声が広く聞かれる。

先行きについては、先行き見通しDIが▼15.0（今月比+0.3ポイント）と横ばいを見込む。輸出や設備投資の堅調な推移、秋の行楽シーズに伴う観光需要の拡大、消費持ち直しなどへの期待感がうかがえる。他方、最低賃金を含め人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、地政学的リスク、運送費・原材料費の上昇などを懸念する声は多く、慎重な見方が続く。

（山形商工会議所を含む全国422会議所、3875の企業が調査対象）